様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">第５回　中山間地域医療検討会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">医療政策課　　電話０４２－７６９－９２３０（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和７年２月４日（火）　１９時００分～２１時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">ウェブ開催　及び　津久井総合事務所３階会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１５人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">９人（保健衛生部長、医療政策担当部長(兼)医療政策課長、保健衛生部参事、津久井高齢・障害者相談課長、地域医療対策室長、在宅医療・介護連携支援センター所長他３人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議　題</td><td colspan="3">１　開会
２　会長あいさつ
３　議題
（１）基本方針に基づく取組について
４　情報共有
５　閉会</td></tr>
</table>

議　事　の　要　旨

１　開会

２　会長あいさつ

３　議題

議題に入る前に、黒沢委員より、令和６年１１月２４日に橋本公民館及びソレイユさがみで開催された「第２回あじさいサミット」の開催結果について報告があった。

≪黒沢委員　報告要旨≫

・当日は、医師５人によるシンポジウムや社会福祉士との座談会など２０を超えるプログラムを用意し、約４００名にご参加いただいた。

・「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を皆で考えられる体験型のイベントとして、医療・介護とは異なる分野のプログラムも実施した。地域で生活するにおいては、医療・介護だけで生活が成り立つものではない。課題の解決に向けて多角的に考えることは重要であるため、繋がりを広げ、多くの方の力を借りてこのイベントも開催することができた。

・第３回は、本年１１月３０日に相模女子大学７号館を会場に開催する予定である。

（１）基本方針に基づく取組について

事務局より資料に基づき、説明した。

（青山会長）多岐にわたる内容であるが、現状分析をもとに、事務局から今後の検討の優先度及び方向性（案）が示されたところである。まずは、基本方針と狙う効果（アウトカム）ごとに意見や質問などをいただきたい。

《基本方針１　在宅医療の充実と医療・介護の連携推進》

【１　在宅医療・介護連携を支える人材の情報共有がスムーズになっている】

（青山会長）「わたしの連絡帳」と従前からの「支え手帳」との違いは何か。

（事務局）「支え手帳」は、地区を限定した中でモデル事業として実施してきたもの。アンケートの結果などを踏まえ、内容と名称を新たにして「わたしの連絡帳」とした。相模湖地区及び藤野地区もモデル事業の対象地区としてきた経過があり、今後も継続して「支え手帳」を利用することは可能である。

（青山会長）このツールが上手に活用されれば、かかりつけの確保という点で有益であると思う。「わたしの連絡帳」は、どのように配布されるのか。

（事務局）ケアマネジャーへの相談から、利用につなげていく。その他、障害をお持

ちの方を含め、利用希望者に配布していく。
（青山会長）利用が広がるよう、引き続き取り組んでほしい。

【２　医療・介護のサービスに関する情報が正しく伝わり、利用されている】
（土肥委員）質問であるが、第２回あじさいサミットの「医師５人によるスペシャルシンポジウム」の中で、「不必要な医療が届けられている可能性」に言及があったとのことだが、どのような趣旨の発言だったのか。
（事務局）国内の在宅医療の現状として、医師や看護師の訪問回数を過剰に設定する事業者が散見されるといった趣旨であった。
（土肥委員）そういった趣旨であれば理解できる。この地域でも例がないわけではない。医療・介護にかかわる多職種が適切に連携し、適正な在宅医療を提供する必要があるのは言うまでもない。
（岩城委員）オンライン診療を受診できる施設が広がる、との新聞報道を目にした。中山間地域には温泉施設もあるので、そういった高齢者が集まりやすい場所でオンライン診療の周知・啓発を行うなども必要だと思う。
（青山会長）良い意見だと思う。温泉や美味しいものがある場所には人が集まりやすい。また、気兼ねなく集まれる場所がある、ということも大切だと思う。
（岩城委員）日頃から実施しているサロン活動の中で感じることがあり、周知という部分にはこだわりたいと思っている。市の広報などで周知される情報も、参加者は知らないことが多い。人の目につく周知、というのは大事だと思う。
（事務局）オンライン診療の実施方法についてであるが、個人宅を１軒ずつ回るよりは、人が多く集まる場所のほうが効率的であるといったご意見も実証事業の中でいただいている。引き続き、国の動向なども見極めながら、法令等に則した中で効率的に実施できる方法を検討していきたい。

【３　かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師を持つ人が増えている】
意見なし

【４　家族介護者が安心して介護できている】
（土肥委員）地域ケアサポート医として登録しており、森田亮委員にも登録していただいているが、以前に比べてアウトリーチを依頼されることがなくなった。地域包括支援センター（以下「包括」という。）から市の担当課へ相談されたケースの中から地域ケアサポート医へ依頼されるものがあるのだと思うが、現状としてこの制度が機能しているのかどうかというのがわからない。登録医師を増やすことを検討する前に、実態を再度確認したほうが良いと思う。

【５　地域住民同士の互助（共助）の力による見守りが行われている】
意見なし

【６　地域住民ひとりひとりが希望する医療・ケアを明確化できている】
（土肥委員）「人生会議」普及の一環として、藤野地区で「もしバナゲーム（※）」を活用した取り組みが進められているのは素晴らしい。私も相模湖地区において、５年以上前から包括や公民館と協働し、また医師会活動の中などでも「もしバナゲーム」を活用した取り組みを進めてきた。今後の高齢者救急の課題に対応するためにも「人生会議」は非常に大切な取り組みであるので、修学医師の皆さんにも引き続き問題意識を持っていただき、地域ぐるみで取り組んで欲しいと思っている。
※もしバナゲーム…余命わずかの想定で、自分の価値観を考え、家族や友人で話し合うために作られたカードゲーム

《基本方針２　医療資源や財源の効率的な活用》
【１　地域住民が安心して通院できている】
（関戸委員）診療所の再編が控えている中で、住民が一番心配しているのは廃止となる診療所の利用者が統合先の診療所などへ通院する際の手段の確保である。バスは１時間に１便しかなく、停留所まで出るのも大変な高齢者もいるため心配している。地域からは、千木良地区を巡回して統合先となる内郷診療所まで患者を運ぶワゴン車を一台確保してほしいという意見がある。そうしないと通院できない方が発生すると思う。加齢に伴ってマイカーを運転できなくなった時に、通院できなくなるのが、今回の診療所再編の最大の問題である。何とかしてほしい。
（青山会長）大きな課題である。通院できるうちは、在宅ではなく外来での受診が基本である中で、通院手段が確保されるべきというのはその通りである。また、集いの場へ通う手段の確保なども大切で、閉じこもり・引きこもり対策としても有効ではないかと思う。
（事務局）全国的に、また本市の中山間地域においても運転士の確保が課題になっている。移動手段の確保については、医療だけでなく、買い物などを含む生活全般にかかわる課題であるため、交通や福祉の部門と連携して検討を進めているところであり、引き続き、安心して通院できる環境づくりに努めていきたい。
（石橋委員）移動手段について、何かうまいシステムが作れないかと思っているが、通所系の介護予防事業所や医療機関がそれぞれで車を所有して送迎を行っている。どの事業所が、どのタイミングで、どんなルートで動いているのかをまとめて、共通利用みたいなものができると良いと思った。運営母体が異なる事業所どうしが手をとりあう、というのはなかなか難しいことかもしれないが、仮にこれが実現されれば全国にも誇れるモデル地域となるのではないかと思う。こうした取り組みは、

本検討会の場なども活用した中で市が率先して調査や声かけを行っていかないと進まないと思うので、ぜひ検討していただきたいと思う。

（原田委員）石橋委員の意見に賛同する。相模湖地区にも独自で送迎車両を運行している医療機関はあるが、当院では難しいと考えている。とはいえ、現在も千木良や藤野からなども来院されており、現在７０～８０歳代の方が９０歳になる頃にどのように通っていただけるのかという不安がある中で、それぞれの事業所が個別に送迎システムを作っていると効率が悪いと思っている。できれば地域全体で、医科、歯科も問わず各医療機関に壁がないように移動できるシステム構築といったデザインで考えてもらえるとありがたいし、地域住民のメリットにもつながると思う。いろいろな方向に発展できるような、全体を通じた移動システムを考えてほしい。

（石井委員）効率的な移動手段の確保については、他の委員の方々が発言されたとおりであると思う。介護のデイケアでは、かなり遠方からも送迎が来ていて数も多い。そういった力の活用も検討できるのではないか。ＩＣＴを活用してデータを処理するなどにより、行政が効率的な運用をできるようにすれば可能性はあると思う。医療の部門と交通や福祉の部門が協力して、何かを主体的にやっていただきたい。移動支援は市の力でなんとか作ってほしい。

（黒沢委員）県内の一部の地域において、タクシー会社を主体にライドシェアが実施されていると伺っている。以前、有償運送をしている方との間で、ライドシェアのような取り組みを有償運送の枠組みで実施できないものかと話をしたことがある。有償運送は登録制で行われているが、介護事業所の訪問用車両もあわせて登録させてもらって移動需要とのマッチングなどが行われれば、保険などの課題はあれど、訪問という本来の目的以外の需要に応えることもできるのではないか。難しいこともあるように思うが、市として検討されることを望んでいる。

（事務局）ご意見の内容すべてを受け止めきれてはいないが、ライドシェアについては県内の三浦市が実施主体となって実証的に行われているものと承知している。国レベルでライドシェアの取組が進んでいるため、課題や対応策の検討などが行われると思われる。移動の現状を捉えた新たな発想から前向きなアイデアをいただけたと思うので、今後の参考とさせていただきたい。

（西委員）診療所の再編においては、交通の問題が一番差し迫った問題だと思う。

（青山会長）通院手段の確保について、本日は様々な意見が出た。今後も検討を深めていければと思う。

【２　医療・介護従事者が確保されている】

（森田亮委員）当院では、看護師だけでなく看護補助者や医療事務員も不足している。従事者の平均年齢が高まる一方で、新たな従事者の獲得が困難な状況にある。「病院などでは働けないだろう」と敬遠してしまうような、資格を持たない人たちにも

担ってもらえる仕事がある、ということを市などと協力して伝えていけると良い。例えば、この地域には福祉科をもつ県立津久井高校があり、高校生向けの研修や、職業体験なども対象者が広がると良いと考えている。実際に、津久井高校在学中に看護補助者として活躍したのち、当院の奨学金制度を活用して看護師となって戻ってきてくれた職員もいる。少しでも医療に携わることができる場を提供することで、若い世代の力も獲得していけるのではないかと考えている。

また、通院手段の確保というテーマにもつながるが、無料送迎バスの運転手確保にも苦慮している。車両があっても運転手がいなければ成り立たない。医療とは関係のない分野で現役時代を過ごし、定年後の活躍の場を求めている方なども採用したいが、職員募集の記事すら目に留まっていないのではないかと感じている。ぜひ市の協力を求めたい。

（事務局）令和３年度から４年度にかけて開催した「中山間地域の持続可能な医療のあり方に関する懇話会」においても、若い世代がこの地域で研修を受けられる環境づくりが大切、との意見が出ていたところ。検討にあたり、参考にさせていただく。

（事務局）医療・介護従事者の確保は、市としても大変重要な課題と認識している。これまで実施してきた施策だけで十分とは思っていないので、今後何ができるかをご相談させていただきながら、引き続き取り組んでいきたい。

（石井委員）人材、特に運転手の確保に向けては、地域にいる退職後のタクシー運転手の活躍が望まれる。第二種運転免許保有者の情報は行政で把握していると思うので、接触できると良いのではないか。

（金子委員）他地域における取組であるが、行政による事業存続が困難な訪問介護事業所への支援の事例がホームページで公開されているので、紹介させていたただく。

（金子委員）島根県では総合診療医の育成に力を入れており、人数も増えているが、看護師やヘルパーが足りないという状況が起きている。その解決に向けては、若い世代等の人材確保だけでなく、まちづくりをどのように考えるかということも大切である。

【３　医療・介護従事者が働きやすい環境（地域）となっている】

意見なし

【４　医療の適正利用が進み、医療機関の過度な負担が減っている】

意見なし

《基本方針３　地域と連携した疾病予防・介護予防等の推進》

【１　地域住民の疾病予防、介護予防への理解や意識、取組が増進している】

（青山会長）令和５年度の教室等開催実績からは、地域で懸命に活動されているリーダーがいて、その活動への参加者もいることがわかるが、地域内でリーダーの養成講座が開催できない状況において、後世に引き継がれていかないといった課題があるようにも見受けられる。地区ごとに違いはあるとは思うが、交通や周知といった共通の課題はあれど、きちんと養成講座が受けられる環境を用意して新たなリーダーを育成していけさえすれば、集まれる一定の環境はあるのではないか。いかがか。

（事務局）食生活改善推進員や健康づくり普及員を養成する講座を市として開催し、公民館区ごとで活躍していただいている。活動は、地域情報紙や公民館などを通じて周知されており、市域全体として活動報告会なども年１回開催されている。

（青山会長）若い世代をどんどん取り込んでいく方策が求められる。

（石井委員）資料３について、それぞれの会員数は、地域で活躍している方の数とずれがあるようにも見受ける。

（土肥委員）がん検診について市の担当課と話をすることがあるが、乳がん・子宮頸がんの検診受診率が低迷するなど、ＡＹＡ世代（※）のがん対策も課題になっている。病気の早期発見が保険給付の低減につながることから、米国の保険制度は検診を受けていると保険料が下がる仕組みになっている。市が保険制度を変えるのは難しいのは承知しているが、インセンティブを働かせることは大切な視点であることをお伝えしたかったので、紹介させていただく。

※ＡＹＡ世代…Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、主に、思春期から30歳代までの世代を指す

（黒沢委員）委員からの意見数が最も多かったテーマであるはずが、包括の充足感としては「概ね充足」とされている点についてずれを感じる。その要因を事務局として把握しているか。

（事務局）包括のコメントにあるとおり、けんこう号が使いやすくなったことなどを背景に「百歳体操」などの地域活動が広がっていることは一つの要因と考えている。しかしながら、各委員からの提案・意見と現在の取組が完全に一致しているとは限らないため、提案・意見の趣旨を漏らすことのないようにしていきたい。

（黒沢委員）委員として、地域で行われている取組を理解していないということがベースにあったのだとすると、今後の周知の重要性といったことにもつながるのかもしれないと感じた。

【２　受診等により、病気や課題の早期発見につながっている】

（関戸委員）難聴の場合、認知症になりやすくなるといった話も聞くので、聴力の検査が充実すると良いと思う。

《その他、全体を通して》

（金子委員）施策の策定の仕方として、ロジックモデルがわかりやすいと思うので、今後の活用を提案させていただく。取組（アウトプット）の先に、達成できたかどうかが判定できる具体的な数値が設定できると、改善に生かすことができる。

（青山会長）検討の優先度や方向性については、今後に向けて重要な論点であるが、各委員から意見はあるか。

（原田委員）診療所の再編が話題にされた当時から意見交換に参加しているが、常に通院手段の確保について意見が出されてきた。これは切実であると同時に、タイムリミットが決まっているものであるため、その認識の下において最優先で検討し、対応すべき課題であると思う。また、その対応策においては、特定の医療機関だけではなく、他の医療機関も合流できるようなデザインを作っていただけると、受診可能な診療科目が増えるといった住民のメリットも生まれてくると思う。

（森田育子副会長）本日の意見交換で、通院手段の確保の問題が最も大きいというのは会全体として共通の認識であるとわかった。地域では、運転をやめる高齢者の増加に伴って、通院手段の確保に苦労しているとの声も増えている。より良い医療の確保に向けて、引き続き意見交換ができると良い。

４　情報共有

事務局より、参考資料に基づき、相模原市国民健康保険診療所条例等の一部を改正する等の条例（案）等に関するパブリックコメント手続の実施結果について説明した。

５　閉会

以　上

中山間地域医療検討会　委員出欠席名簿

（五十音順）

氏　　名	選　出　団　体　等	出欠
青山（あおやま）　直善（なおよし）	学識経験者（北里大学医学部総合診療医学　主任教授）	出席
石井（いしい）　冬樹（ふゆき）	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
石橋（いしばし）　了知（りょうち）	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
岩城（いわき）　美野（みの）	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
潮（うしお）　環（たまき）	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
金子（かねこ）　惇（まこと）	学識経験者（横浜市立大学大学院データサイエンス研究科　准教授）	出席
黒沢（くろさわ）　愼五（しんご）	さがみはら介護支援専門員の会	出席
佐々木（ささき）　由加里（ゆかり）	公募委員	出席
関戸（せきど）　ヒデ子（ひでこ）	公募委員	出席
土肥（どい）　直樹（なおき）	相模原市立国民健康保険診療所	出席
西（にし）　八嗣（やつし）	相模原市立診療所の指定管理者	出席
原田（はらだ）　工（たくみ）	相模原市医師会	出席
布施（ふせ）　厚子（あつこ）	相模原市歯科医師会	出席
森田（もりた）　育子（いくこ）	相模原市薬剤師会	出席
森田（もりた）　亮（りょう）	相模原市病院協会	出席